

西光

第 19 号

百橋山 西光寺

高岡市京町一〇一二五
電話(〇七六六)二二一二九七一
FAX(〇七六六)二二一三二七〇
平成十七年十月八日

平成十五年五月三十一日・六月一日に西光寺阿弥陀堂の落慶法要を行ってからは、はや二年が過ぎました。時間の経つのは早いものであります。顧みれば旧本堂・庫裡の解体から始まり、着工、棟上げ、竣工に至る熱気あふれる緊張の日々、そして講演会や獅子舞や八尾おわらなどの華やいだ落慶法要の賑わいが未だ昨日のことのように思い出されます。本年は当初の五カ年計画の最終年にあたります。西光寺の門信徒の総力を挙げて敢行され、多くの方々からの浄財を得て推進されたこの大事業も、年度末には無事すべての会計業務を終了できることと思われ、喜ばしい限りです。報恩講終了後の年末までには、前庭に設置されている寄進札を撤去して、堂内に新たに作る「西光寺阿弥陀堂建立懇志歴名」板に置き換わります。そして来年三月の定例世話人会において、決算報告がなされることになっていきます。その折にはこの大事業の完成を祝ってささやかでも祝宴をあげたいと考えています。

《百橋山西光寺の「百橋」の由来》

時は平安時代、京の都の北方に百々の辻ととという通りがありました。現在の京都市上京区寺之内小川通です。そこには小さな小川が流れ、小さな橋が架かっていました。百々橋ととです。わずか二間ばかりの幅の小さな橋がやがて歴史に名を残す大事件に巻き込まれたのです。時代は下つて、室町時代。今から約五百三十年前、この橋を境にして天下の大乱が勃発するのです。すなわち応仁の乱（応仁元年・1467）であります。室町幕府内の権力争いを因として、室町幕府に拠る細川勝元方東軍と、山名宗全率いる西軍とが、この橋と小川通を挟んで戦端を開いたのです。以後十年にわたる都大路を駆けめぐる戦乱の幕開けでした。この争乱によって京都の街は焼け野原となり、大きな戦禍を被りました。その結果多くの公家や貴族京都を離れ、それぞれの莊園を頼って地方に難を逃れました。その後元の場所である上京区寺之内小川通、百々の辻には室町時代に尼門跡寺院である百々御所ととと呼ばれる宝鏡寺（人形



百々の辻

寺とも呼ばれる）が造営され、さらに江戸時代以降、一方の小川通には茶道表千家と裏千家の各家元邸がおかれ、茶室今日庵と不審庵があつて茶道の隆盛を誇っています。やがて昭和に入り、近くの堀川大通りや小川通が埋め立てられて、川の流れはほとんどなくなりましたが、この百々橋の遺構は何度も建て替えられつつ今に伝わり、現在は石造の石橋として再建され、しかも場所も移して残っているのです。京都市西京区の洛西ニュータウンの中の竹林公園に移築され、在りし日の姿をとどめております。西光寺の山号である百橋がこの由緒ある地名に由来することは、西光寺が元天台宗であつたこと、言い伝えによれば、山背國愛宕郡にあつたいわれ、それは現在の京都市であることは明白です。一説には京都の北西にある愛宕山にある百橋谷に天台宗寺院としてあつたとする説もありますが、現在愛宕山には百橋谷という場所は見つからず、むしろ愛宕郡の百々橋であることのほうが自然であります。愛宕郡はすなわち昔の平安京の周辺部、現在の京都市の周辺部、上京区の一部、左京区、東山区、北区、西京区、南区などであります。よつて元は百々橋の近くにあつた天台宗寺院であつた西光寺が応仁の乱などの戦乱に巻き込まれ、難を逃れて莊園のあつた越中國射水郡に逃れてきたのだらうと推察するわけです。西光寺が高岡で再建された最初の場所が百橋です。そして最初に居着いた場所がやはり川の傍、小矢部川の傍に居を定めたので、村の名を百橋としたのではないかと想像するわけです。ただし今の五十里にある百橋は元々は現在の場所ではなく、もつと五十里の山に沿つた今のアキラ・パレスの下あたりです。百橋地番の田んぼは現在でもそこにあります。もともと百々というのは、川の流が百々と流れる様をいう言葉です。百々ないしは、瀨（とろ、どろ）とも云います。



百々橋付近地図



百々御所



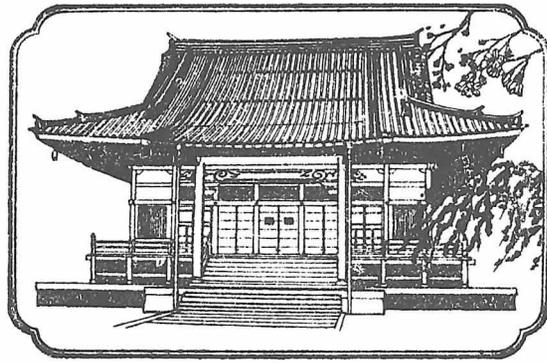
百々橋（洛西ニュータウン内）

《真宗四十八ヶ寺巡礼帳》

御寄進を頂いた門信徒の方にお分けした巡礼帳はご利用になっていきますか？一番の西光寺阿弥陀堂から出発して、適宜ご縁のある四十八ヶ寺を回って朱印や写真を貼り付けてゆくもので、最後の四十八番目はまた西光寺にて終了となります。もちろん四十八は大無量寿経に説かれた阿弥陀如来の四十八の誓願からきています。なかでも十八番目が念仏往生の願であります。浄土真宗の今なお盛んな北陸一帯、親鸞聖人が越後流罪の後、長い間の思索・著作と布教に明け暮れた関東方面、そしてご生誕の地であり、また若き頃叡山にての修行と、法然上人との出会いに地でもあり、やがて終焉の地ともなった関西方面、と三方面に分けてありますが、地域や宗派に特にこだわらなくても結構です。ご縁のある寺々を経巡ることにより深く人生の旅路を実感していただければ幸いです。最後にまた西光寺にて朱印を押しますので満願を果たした方はいってください。

南無阿弥陀仏

百橋山 西光寺



西光寺満願朱印

《話題の本》

「癒されて生きる」柳沢桂子 (岩波現代文庫) 平成十六年三月 九百円

今話題の本である。原因不明の難病に苦しみ、激痛と寝たきりの状態から、生命維持装置をはずして死をも覚悟した著者が、やがてなお生きることの幸せを見出し、生かされてあることの不思議さと仏の実在を会得した、心からの叫びである。今なお病床にあつて不自由な体であっても、パソコンで般若心経を現代語訳したり、和歌を詠んだり、与えられた命に生き甲斐を感じている。

中の一首 「生きるという悲しいことを我はする草木も鳥も虫もするなり」
深まり行く秋の虫の鳴く気配に人生の行く先を見つめてほしいものである。一読をお勧めしたい。

《行事予定》

- 一月一日・二日・三日 修正会
- 一月八日 法話会 (初お講) (講師 大寶寺 龍本茂樹師)
- 三月八日 法話会 (講師 大寶寺 龍本茂樹師)
- 四月八日 法話会 (講師 光専寺 葉室俊和師)
- 五月八日 法話会 (講師 大寶寺 龍本茂樹師)
- 六月八日 法話会 (講師 光専寺 葉室俊和師)
- 七月八日 法話会 (講師 大寶寺 龍本茂樹師)
- 八月七日・八日 永代祠堂経会 (講師 光専寺 葉室俊和師)
- 八月十四日・十五日 お盆 (旧盆)
- 九月八日 法話会 (講師 大寶寺 龍本茂樹師)
- 十月八日・九日 報恩講 (講師 教願寺 釜田哲男師)
- 十一月八日 法話会 (終いお講) (講師 光専寺 葉室俊和師)
- 十一月二十七日 御正忌 (講師 願浄寺 嶼 秀誠師)
- 十二月三十一日 除夜勤行・除夜の鐘